

会議名	第20回多摩市地域公共交通会議	
開催日時	令和7年11月18日（火）14時30分～16時30分	
開催場所	関戸公民館 ヴィータホール	
会議次第	<p>議事 (1) オープンハウスの結果について (2) 多摩市交通マスタープラン（素案）について (3) パブリックコメントの実施について (4) 多摩市ミニバス再編について</p> <p>報告 (1) その他報告事項等</p>	
出欠席（敬称略）	(1) 出席委員・22名（氏名（ ）内は代理出席者の氏名）	
職名	氏名	構成委員
会長	山崎 美樹子	多摩市 副市長
副会長	吉川 徹	東京都立大学 都市環境科学研究科建築学域教授
委員	八山 晋一郎	小田急電鉄株式会社 交通サービス事業本部交通企画部課長
委員	濁澤 雅 (野村 圭祐)	京王電鉄株式会社 鉄道事業本部計画管理部計画担当課長
委員	嘉屋 智樹	多摩都市モノレール株式会社 総務部課長（総務、広報、DX担当）
委員	橋山 英人	神奈川中央交通株式会社 運輸計画部計画担当課長
委員	三浦 裕介	京王電鉄バス株式会社 運輸営業部乗合事業担当課長
委員	鈴木 健一	飛鳥交通ニュータウン株式会社 東京・神奈川地区担当 営業部長
委員	山崎 龍男	小田急交通南多摩株式会社 本社営業所取締役所長
委員	小野 賢治 (安西 勉)	京王自動車株式会社 運輸事業本部運輸事業本部長
委員	富樫 秀樹	一般社団法人東京バス協会 乗合業務部長
委員	小池 毅 (伊藤 和広)	一般社団法人東京ハイヤー・タクシー協会 業務部長
委員	小林 康雄	多摩市視覚障害者福祉協会 理事
委員	小林 義治	多摩市身体障害者福祉協会 理事長
委員	中村 一雄	多摩市自治連合会 総務委員・自治対策委員
委員	小林 聡 (戸澤 慶)	国土交通省関東運輸局東京運輸支局 首席運輸企画専門官（輸送担当）

委員	佐々木 浩幸	京王バス労働組合 多摩支部 支部長
委員	二瓶 秀雄	小田急交通南多摩労働組合 書記長
委員	関谷 隆史	京王自動車労働組合 桜ヶ丘支部 支部長
委員	山下 邦洋	東京都南多摩東部建設事務所 管理課長
委員	永吉 申二	警視庁多摩中央警察署 交通課長
委員	小柳 一成	多摩市 都市整備部長
(2) 欠席委員・・・4名 (3) 傍聴者・・・0名 (4) 事務局・・・4名（多摩市都市整備部交通対策担当課長・道路交通課交通係） 3名（株式会社ケー・シー・エス）		

会議要点録

1 開会

- ・事務局が配布資料の確認を行った。

2 委嘱状交付

- ・事務局が委嘱状の交付に係る連絡及び新たに加わった委員の紹介、代理出席者・欠席者の連絡を行った。

3 会長挨拶

- ・会長が開会の挨拶を行った。

4 議事

(1) オープンハウスの結果について

事務局

- ・資料に基づいて事務局より説明を行った。

ケー・シー・エス

- ・資料に基づいて株式会社ケー・シー・エスより詳細な説明を行った。

質疑・意見なし

(2) 多摩市交通マスタープラン（素案）について

事務局

- ・資料に基づいて事務局より説明を行った。

質疑・意見

多摩市身体障害者福祉協会 小林委員

- ・評価指標の「民間路線バスの1日平均乗降客数」について、増加を目標としているが、目標設定の考え方を確認したい。近年は自転車利用も増加している一方で、高齢化に伴い自家用車の利用をやめ、バスを利用する人も増えていると考えられる。

事務局

- ・乗降客数は、コロナ禍で大きく落ち込んだものの、徐々に回復してきた。しか

し、現在は、頭打ちの状態であり、今後何もしなければ、再び減少する可能性がある。今回の交通マスタープランでは公共交通への利用転換を図るため、各種事業を設定している。これを踏まえ、目標値を増加とした。

- ・一方、運行本数などは、ドライバー不足などの課題があるため、「増加」を目指すことが現実的ではないと考え、「維持」を目標とした。

小田急電鉄 八山委員

- ・評価指標「鉄道の運行本数」について、令和14年度の目標値として現状維持が掲げられているが、懸念がある。現段階で運行本数を減らす計画はないものの、需要に応じた適正な輸送量とサービスを提供することが公共交通の本質である。そのため、多摩市外を含む沿線人口や需要が減少した場合には、運行本数の適正化が必要となる可能性がある。

事務局

- ・ご指摘のとおり、バスも鉄道も需要に応じて供給しているものと捉えている。市としては一定の運行本数を確保したい意向があるが、それだけを目標とするべきではないと考える。先ほど説明させていただいたとおり公共交通への利用転換を進めた上で維持が図られるべきであるが、現行の記載ではその意図が読み取りにくいとため、記載方法を再検討させていただく。

吉川副会長

- ・本件は部会での意見を踏まえ、事務局が取りまとめたものである。指摘事項も考慮し、厳しい状況であることは理解している。しかし、高齢化が進み公共交通なしでは生活が困難となる中、市民の外出機会を確保することは活力ある高齢社会の基本である。これらを踏まえ、目標値を設定したものであることを補足させていただく。

山崎会長

- ・現行計画における計画目標は、新型コロナウイルス感染症等の影響により未達項目が多い。未達の要因について、これまでの議論で出た意見や分析を事業概要のP4、P5に記載すべきである。

事務局

- ・ご指摘のとおり、未達の要因分析が記載されていない状況である。これまでの議論で出た意見を整理し、記述を修正したい。

(3) パブリックコメントの実施について

事務局

- ・資料に基づいて事務局より説明を行った。

質疑・意見なし

(4) 多摩市ミニバス再編について

事務局

- ・資料に基づいて事務局より説明を行った。

質疑・意見なし

5 報告

事務局

- ・自動運転バスの取組について報告する。昨年度は東京都事業として実施したが、今年度は多摩市の取組として京王電鉄バス等とコンソーシアムを組み推進していく。今年度は大型バスが使用可能となり、いすゞ自動車のエルガを東京都内で初めて運行する。ルートは鶴牧循環を運行する。同路線は多摩センター駅発で、利用の多い住宅街を走るため自動運転の実証に適していると考えた。12月から調律運行を開始する。一般試乗は1～2月の土日祝に10日間程度を予定し、詳細は決まり次第広報で周知する。
令和9年度には一部区間でのレベル4を目指す方針である。

質疑・意見なし

6 閉会

- ・要点録の署名人として、会長より関谷委員及び小柳委員が指名され、会議は終了した。

以上